

普及活動情勢報告

情勢報告（平成30年1月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

新たに集落営農法人が設立！ ～ 農事組合法人神ノ川水源の設立総会 ～



組合員と支援機関の
担当者ら

1月19日、中神ノ川公民館で、四万十町内で8番目となる集落営農法人となる「農事組合法人神ノ川水源」の設立総会が開催され、9名の組合員が参加しました。

普及所は、法人設立に向けこれまで、営農計画や今後の組織運営等について助言指導してきました。

組織の代表者からは「今後ますます高齢化が進む中で、この地域の農地や人の受け皿となっていきたい」と決意表明がありました。

今後も、集落の担い手や農地の受け皿となる集落営農組織の法人化を支援していきます。

新規就農者の確保に向けて ～就農相談会の開催～



相談内容に応じて関係
機関が説明

1月4日、四万十農協会館で、本年度2回目となる就農相談会を開催し、新規就農希望者7名の参加がありました。

相談会では、普及所、町、JAから農地やハウス、資金など就農に向けた支援策について説明した後、個別に相談を受けました。

参加した7名のうち5名は四万十町の基幹品目であるショウガ、ニラでのUターン就農で、活用できる町や国の支援制度について多くの相談がありました。

今後の就農状況を確認しながら、早期に安定した経営が開始できるよう関係機関とともに支援していきます。

十和の伝統野菜を次世代の子供たちへつなぐ ～昭和小学校で食育授業を開催～



小学生が昔野菜の販売
に初挑戦

1月16日、17日に大道地区の昔野菜栽培農家3人と普及所、JA高知はた十和支所の職員らが、四万十町立昭和小学校の3、4年生11名を対象に食育授業を行いました。

子供たちが育てた昔野菜（昔だいこん、昔かぶ、昔高菜）の調理実習や、道の駅「四万十とおわ」での販売体験を行いました。

子供たちが栽培、販売、料理づくりを体験することで、保護者や地域の人たちにも昔野菜についての関心をもってもらうことができました。

普及所は、今後も十和の伝統野菜と食文化を子供たちに伝えていく取組みを同校や昔野菜栽培農家らと連携し取組んでいきます。

薬用作物「セネガ」の生産拡大に向けて ～栽培講習会の開催～



生産者に基本的な栽培管理を説明

1月5日、JA高知はた十和支所で「セネガ」の栽培講習会を開催し、2名の新規生産者を含め、10名の参加がありました。

普及所とJAから基本的な栽培管理について説明をした後、先輩生産者から新規生産者へ「計画的な畦づくりを」、「除草作業が遅れないように」などのアドバイスがあり、栽培のポイントを確認することができました。

出荷先の製薬会社は生産拡大の意向があることから、今後も新規生産者の掘り起こしに取り組むとともに、栽培技術の向上にむけて支援していきます。

新たな土地利用型作物の導入に向けて ～野菜・果樹の事例調査～



ネギのほ場を視察

12月28日、新たな土地利用型作物の導入に向けて、幡多地域（四万十市、土佐清水市、三原村）の先進事例調査を行い、集落営農法人や中山間農業複合経営拠点の社員計11名が参加しました。

先進事例として、業務加工用ネギやキャベツの栽培、陶管暗渠排水による水田の汎用化の取組みを視察し、参加者からは、「業務加工用野菜の導入は検討していきたい」「果樹栽培では排水が大事」といった声が聞かれ、新たな作物導入への意欲が感じられました。

普及所としては、今後も新たな土地利用型作物の導入に向けた取組みを支援していきます。

栗の生産性向上はせん定から ～JA高知はた十和・大正支所栗部会せん定講習会～



栗剪定士によるせん定講習の様子

1月15、16日、十和・大正地区の各2カ所でJA高知はた十和・大正支所栗部会せん定講習会が開催され、生産者38名が参加しました。

県外先進地の栗剪定士が実際にせん定を行い、普及所、JAが補助役となり、樹の状況に合わせたせん定技術を指導しました。

参加者からは「せん定したら栗の実が大きくなった」「せん定は大事」といった声が聞かれ、せん定技術の理解が深まりました。

普及所はこれからも、栗産地の生産拡大に向けた取組みを支援していきます。